

Sutrum

シュトルム

第9号 平成22年8月31日発行

まさに“酷暑”が長く続いた今年の夏、皆さま夏バテ気味ではありませんか？ 疲れた体と心には、やはり音楽は特效薬！ リラックスやリフレッシュのおともにぜひクラシック音楽を流してみてください。 イギリス館コンサートを終え、秋の訪れの早いウィーンに帰って行った伊都さん、どんな夏を過ごしたのでしょうか？

近況報告

今年の日本は全員一致で耐え難い猛暑だったという意見に落ち着くこと、間違いないと思われていますが、ウィーンも40度近くの暑い日が続いたそうです。

今年の夏はイギリスのロイヤルアカデミーのサマーコースに参加していたため、8月の日本でのコンサート直前までロンドンに滞在していたのですが、イギリスはこの2,3年ほど、夏になっても気温がそれほど上がらず、天気の良い日が続いているとのこと、今年は天気は良かったのですが、8月上旬真夏にもかかわらず、最低気温が20度をきる、日本から見るとうらやましいかぎりの涼しい気候で、日本帰国後あまりの暑さにすっかりノックダウンされてしまいました。

この9月より、来年にかけてウィーンの拠点は残しつつ、ロンドンの大学院にて勉強を続けることになりそうで、ウィーンとはまた違った、長い伝統と新しい試みが巧みに融合するイギリス文化の息吹を貪欲に吸収できればと思っています。ウィーン、ロンドン2つのヨーロッパの拠点を往復することになりそうです。

【伊都】

イギリス館コンサート

8月13日、第3回 TRAUBEN 主催の「Wiener Wind(ウィーナーヴィント) ~真夏の夜、ウィーンの風に吹かれて~」が、お盆休みで少し静かな横浜山手のイギリス館で開催されました。

今回前半のテーマは東ヨーロッパの民族色の濃い楽曲。ブラームス/ハンガリー舞曲、ドボルザーク/スラブ舞曲、バルトーク/ルーマニア民族舞曲集、など、ジプシー音楽に代表される民族音楽を取り入れた作曲家の作品を紹介してくれました。

楽しい舞曲の中にも哀愁を含んだ独特の旋律、リズムの緩急など、伊都さんの感情豊かな表現にぴったりの作品ばかりで、彼女の持ち味が存分に発揮されました。

後半はピアニスト荒井裕子さんのショパン/ノクターンでしっとり始まり、同じポーランド出身のヴェニアフスキーと続き、ウィーンのシュトラウス父子に戻って最後はご存知「美しき青きドナウ」。

ドイツやオーストリアと国境を接しながら、異なる文化を持つ東ヨーロッパの国々を、音楽を通して感じる事ができたひとときでした。

終演の頃には昼間の暑さも落ち着き、今年も満員となったお客様には笑顔で帰っていただけました。ご来場いただいた皆様、本当にありがとうございました。



上2枚の写真は会員 後藤吉一さん撮影



TRAUBEN 名物ぶどうジュースはいかがですか



今回も満席のイギリス館。ありがとうございます！



いとちゃんのクラシック講座

OP. 9

いろいろと途中になっているのを知りながら、やはり今回もまた違うことを書いてしまいます。なぜなら今年はショパンイヤーだからです！ ピアノの詩人、ポーランドの偉大なる音楽家フレデリック・ショパンの生誕 200 年の今年、ポーランドでは世界 3 大ピアノコンクールの一つ、ショパンコンクールが彼の命日である 10 月 17 日を挟んで開催されます。

何を隠そう、私はショパンの大ファンで、2 年ほど前まではショパンが好きなど、クラシックをやっているものにしてはあまりにもポピュラーで、なんだかクールではない気がして口に出さなかったのですが、好きなものは好き、そして何よりもいいことは彼はほぼピアノ曲しか書いておらず、ヴァイオリンでは演奏不可なため、演奏に対しても自分のことを省みる必要なく好き勝手なことが言える！ ことです。ショパンの何よりのすごいところは 1 回聴いても良い、100 回聴いてもなお良い、ところだと思います。

ショパン弾きといわれるピアニストは少なからずいますが、私見ながら最高のショパン弾きは、同じポーランド出身、第 9 回ショパンコンクール最年少優勝者（当時 18 歳）である、クリスティアン・ツィマーマンです。彼の演奏するショパン、特に最近の演奏はますます硬派で、かなりロマンチックな曲を、クールに硬質な音でロマンチックに弾かないのがかえってロマンチックに聴こえるという独特の世界を、是非一度経験してみることをお勧めします。 【伊都】



DVD クラシックコレクション

第 6 回 「北京ヴァイオリン」 2002 年中国

今回からは作曲家の伝記ものではなく、クラシック音楽をモチーフにした映画をご紹介します。

- **ストーリー** 母の形見のヴァイオリンを見事に弾きこなす息子チュンを、一流のヴァイオリニストにすることを夢見る父リウ。父と子はコンクール出場のため田舎町から北京へと旅立ち、著名な先生のレッスンを受けようと、北京で暮らし始める。
- **見どころ** 息子役のタン・ユンは実際にヴァイオリニストを目指す音楽学校の学生で、映画初出演ながら、思春期の少年の揺れる気持ちをよく演じている。父親役は中国の人気実力俳優だそうで、この役で国際映画祭の主演男優賞を獲得した程、息子への一途な愛を熱演している。
- **感想** ハリウッドに進出した中国人監督作品だけあって、舞台となる田舎町や北京の描写がとても魅力的。少年の描き方も、スポ根もののようにただ頑張る親子像、ではなく、親に反抗して女性に熱を上げ、こともあろうにヴァイオリンを・・・というところがおもしろい。演奏がすごく上手いと思ったら、劇中にも登場する中国のヴァイオリニスト、リー・チュアンユンの吹き替えとか。それでもラストの渾身のチャイコフスキーは感動的。

*DVD は TSUTAYA の店舗でレンタル可能な作品のみをご紹介します。

編集後記 夏のイベント、イギリス館コンサートも終わり例年なら秋の気配も近づく頃…のはずが、今年はまだまだ真夏の暑さが続きそう！皆さま体調は如何でしょうか。/ 今年はいギリス館の定員を守るため、座席を 50 席にさせていただきました。その分、収支に多少の赤字が出たもの、いつもより全体的にゆったりと落ち着いて演奏を楽しんで頂けたのではないかと思います。模索しながらも年々形が整ってきました。来年も続けます！ / 伊都さんの生活に 9 月から変化があり、ロンドンと、パリならぬウィーンとの「二都物語」。次回の近況報告、楽しみです。 < ゆ >

発行：加納伊都後援会

TRAUBEN
〒231-0835 横浜市中区根岸加曾台 15
TEL：045-622-6780
FAX：045-621-6423
Email：itoviolin-kouen@ac.auone-net.jp
Homepage：http://www.ito-vn.jp/